

・・・年明けの惨事から始まった令和6年～年の瀬へ・・・

令和6年の元日は石川県能登半島で16時6分にM5.5の前震が発生し、その僅か4分後の16時10分には本震が発生し、その規模はM7.6で輪島市では最大震度7を観測しました。

この地震により日本海沿岸の広範囲で津波が観測されたほか、各地で土砂災害、火災、液状化現象、家屋の倒壊が相次ぎ、道路は寸断され障害物を除去するための重機が動かせず、救急車両も身動き出来ない状況で、奥能登地域を中心に北陸地方の各地で甚大な被害をもたらす大惨事の幕明けとなりました。

正月二日には東京国際空港(羽田空港)で日本航空機(エアバス A350-941)と離陸のため誤って滑走路上に侵入していた海上保安庁の航空機(デ・ハビランド・カナダ DHC-8-Q300)が東京国際空港 C 滑走路上で衝突、両機が炎上した航空機事故が発生しました。

この事故でJAL機の乗員乗客は客室乗務員の誘導で全員が脱出しましたが海上保安庁の航空機は機長、副操縦士他4名、計6人の内5人が死亡し機長一人が重傷を負いましたが救助されました。

前日の能登半島地震の被災地向けの物資を中継場所となる新潟航空基地へ搬送する途上の海保機で、年明けの二日間で、続けての大惨事でした。

不穏な幕開けの令和6年でしたが石川県能登半島一帯はその後も6月3日にはM6.0、震度5強の大きな余震が発生しています。複数回にわたる余震による振動で緩んだ地表が9月21日の豪雨により輪島に史上最大の降雨で容易に土砂災害や洪水災害を誘引する複合災害を起こしています。

線状降水帯なる気象用語も身近な用語になりました。

その度に地震の被害に遭われた方々も再度の避難所生活を余儀なくされ本当に大変な生活をされました。現在も仮設住宅での生活ですが、あろうことかやっと仮設住宅に移行出来たのにも関わらず、そこが洪水に合うと云うとんでもない事も起こっています。

地球温暖化による異常気象が言われて久しいですが国連のアントニオ・グテレス事務総長によれば温暖化と云う様な生易しい現象ではなく寧ろ地球沸騰化だと言わしめています。

二酸化炭素削減も待ったなしです。

この事については令和4年3月号から令和6年6月号までの、2年数か月に渡る「住民協ひろば」に連載された鈴木為之さんのカーボンニュートラルに譲ります。

立冬を迎え急に寒さを感じるようになりました。

我が国の政治も与党の過半数割れで混沌としています。

11月5日の米国大統領選挙も共和党の圧勝でトランプ政治が始まりますがこちらも混沌としている様で今年の年末は不安定な政治状況で迎えるようになるのでしょうか。

校区住民協 代表 山崎 徳次郎

令和 6 年 1 1 月度役員会

開催日時と場所：2024 年 11 月 2 日（土）

13 時 00 分～15 時 00 分 久木会館

出席者：13 名（内役員 10 名）

議題

(1) 行政からの連絡事項

①ふれあいフェスの件

配布資料③を参考に、障害者週間にあわせて、障

害者と共に楽しむ「ふれあいフェス」が逗子アリーナで 12 月 7 日に開催されることが紹介された。

(2) 事務局からの報告事項

①逗子市住民協連合会（10/22 実施）報告

○高齢者を考慮した公共交通機関の件

逗子市の重要課題としてとらえており、「懇話会、懇談会」を設立し、バス会社、タクシー会社、社協、包括など多方面の人々の参加を要請し、審議する予定。令和 8 年度までには方向性を決定する予定であることが報告された。

本件に関し、12 月の定例会に環境都市部の担当者を招いて、プレゼンテーションを受ける予定であることが紹介された。

また、この「懇話会、懇談会」に住民協の代表として議論に加わりたい人がいれば、会長に申し出るよう要請された。

○わんわんパトロールの件

久木住民協以外の住民協では、なんらかの活動があることが確認された。

池子住民協ではリーダーがいて、散歩中に気付いた問題点の情報の取りまとめ/処理をしているとのことだが、久木には防犯部はないので対応はむずかしい。

犬の散歩に関わっている集団はかなり大きいので、犯罪の抑止につながることを期待できるが、経費負担の面もあるので、基本的には各自治会の対応とすべきであり、久木小学校区としてどう対処すべきかを引き続き検討していく。

②逗子市池子接收地返還促進市民協議会の件

配布資料②を参考に、年 4,5 回開催されている首題の協議会の事業方針などが紹介された。

事務局からは、昨今の世界情勢を鑑み、米軍基地とのかかわり方、基地の再評価などを整理する必要性、シンポジウムの開催などを提言したことが報告された。

(3) 審議事項

①逗子市防災訓練/避難所運営訓練の件

○配布資料④を参考に、11/17 に実施される逗子市防災訓練/避難所運営訓練の実施内容、スケジュールなどが説明された。

本件に関し、在宅避難者の安否確認訓練を地区ごとで実施するが、内容がバラバラで効果も疑問のものが多々みられる。在宅避難者が増加する見込みであることを踏まえ、今後体系立てて整備していく必要があるとの意見が出された。

○デジタル簡易無線訓練の件

配布資料⑤を参考に、11/17 の逗子市防災訓練/避難所運営訓練時に実施されるデジタル簡易無線訓練につき説明された。

充電器準備状況の確認、各地区と防災本部との情報交換方法、基地局に室外アンテナが必要かなど検討課題がいくつか残されているので、7 日に業者を招聘して実施する予行練習時に確認することになった。

(3) 「住民協ひろば特別号」の件

原稿は完成したので、4 日に大久保印刷にデータを引き渡し、印刷部数 5600 部、紙質は前回と同様で発注することが確認された。印刷の完成は 21 日、そのまま朝日新聞配送センターに持ち込む予定。

昨年配布されない地区があったので、今回は市の広報と同時配布を着実に実施するよう、朝日新聞に文章で申し入れるとともに、市の市民協働課に

も協力を要請することが確認された。

(4) 久木小学校での拡大久木朝市(11月23日開催)の件

ポスターが完成したことが報告された。

(5) 住民協ひろば25年1月号についての依頼
1月号に24年度の防災訓練特集を組むことが紹介され、個別訓練の記録的な内容とするか、各自治会、町内会責任者の感想・反省などを記載する内容とするかの諮問があった。
議論の結果、個別訓練の記録的な内容とすること

し、各項目の執筆者の依頼があった。

⑤その他

a) スズキヤの移動販売車の件

販売車の手配を追加して欲しい地区があれば、堀田地域担当リーダーに申し出るよう要請された。

b) 久木の郵便局が近々閉鎖されることが紹介された。

c) 来年度の事業予算の提出を求められているが、今回はデジタル関連予算の項目が追加されていることが報告された。

《レポート》

家庭用蓄電池：家庭の再エネ需要に布石（10/24付日経新聞より）

・・・大手のEVメーカーが家電量販店と提携して蓄電池を全国販売
併せて災害対策用としてポータブル蓄電池の勧め

太陽光発電は、風力発電と共に再生可能エネルギーの主力とされていますが、適地の少ない日本では大規模な設備のメガソーラーの増加が緩慢になっており、代わりに小規模ながら数の多い住宅に設置される太陽光発電に期待が高まっています。東京都では25年4月から新築住宅に太陽光パネルの設置を義務化し、蓄電池の設置にも併せて補助金を出すことになっており、恐らく近い将来この流れは全国に広がるでしょう。

尚、逗子市には「逗子市再エネ・省エネ・畜エネ機器導入費補助金」という名前で、住宅用定置型太陽光パネルや蓄電池に、¥15万を補助する制度があります。

なぜ蓄電池を太陽光パネルと組み合わせて使用することが勧められるのか。太陽光による発電は、太陽光があるときにしか発電ができないため、一部の電気を蓄電池に貯めて必要な時に使用ができるようにするためです。家庭での電気の使用から考えれば、蓄電池がない場合は、発電される屋間に使用するにとどまり、余剰電力を生じた場合は売電することになるに対して、蓄電池が備えてあれば余剰電力を蓄電して夜間に使用することができると共に、深夜の安価な商用電力を蓄電し

ておくこともできます。

2023年度までの累積の住宅用太陽光パネルの設置数は300万件に対して蓄電池の出荷台数は、産業用を含めて93万台にとどまっており蓄電池の普及は大幅に遅れています。

今後、住宅用太陽光パネルの普及が進めば、更に発電量の変動の増大と共に変動を抑える蓄電池の需要増が必然と予想されることから、日経新聞によればテスラが山田電機と提携して家庭用蓄電池を全国販売するとのことでした。

住宅用の蓄電池は5KW以上程度の大型であり、高価なため中々普及が進まないのが現状で、量販による価格の低下が期待されます。

一方で1KW~500W程度の小型で持ち運びができるポータブル蓄電池が普及期に入っています。災害多発の現状から考察して、災害時の停電対策用として、各家庭に備えおくべき機器となると考えられるので、検討されておかれることをお勧めします。100W程度の小型のソーラーパネルと組み合わせて使用するのがお勧めです。(価格はソーラーパネルと合わせて¥5万~15万程度)

鈴木 為之(山の根在住)

《寄稿》

・・・やまかがし・・・

校区住民協 理事 田倉 由男

今年、83歳になった一人暮らしの男。

6時半に起床し、朝刊を取りに玄関のドアを開ける。しばし、西側の雑木林をながめる。私の朝の風景である。我が家は東西北を雑木林に囲まれている。

ここに住居をかまえて半世紀以上が経つ。逗子駅までは、一本道を歩いて10分ほどの距離である。ふとおもう。雑木林と一本道の50年の人生を。30代初めに、ここに住もうと決めたのは、“静かなところだな”これが全てであった。確かに静かなところである。それ以上に今では、雑木林に囲まれた一本道、この一本道を行き交うご近所の方々のすべてが素晴らしく私は幸せを感じている。

今年の夏も終わってしまった。妙に気になるといふか、心の片隅にひっかかることがあった。この場所（庭）で初めて蛇に出会ったのである。

庭の隅っこを1メートルほどの長さの黒っぽい色の細身の蛇が、多分青大将だと思う。ゆっくり進んでいたのである。

おそろおそろ目で追いかけていたが、目をきった瞬間、蛇はいなくなっていた。庭の隅をぐるっと確認したが、みつからなかった。突然あらわれ、あっという間に消えしまったのである。蛇嫌いの自分だが、不思議なことにいとおしさをおぼえていた。そして、心の中に少年時代のあの光景がよみがえる。

—— 細い一本道の山道を歩いていた。緑褐色の蛇が、やまかがしだとおもう、すうっと横切った。その瞬間、恐怖心におおわれ、山道を前に進むことができず、引き返した。

この光景は、不思議にすうっと、心の底にこびりついている。

編集後記

引力（いんりょく）と斥力（せきりょく）・・・

10月に行われた衆議院選挙の結果を踏まえて、評論家が自民党が過半数割れとなった結果、今後の政局がどうなるのか、どのような合従連衡（がっしょうれんこう）がおこなわれるかについて予想をしていた。その中で各政党の「引力」と「斥力」という言葉をキーワードとして予測を行っていた。

私は恥ずかし乍ら「斥力」という言葉の意味が解らず、調べてみると、物理学で物を引き合う力を「引力」逆の物を遠ざける力を「斥力」と云う事が書いてあった、学生の頃、授業で聞いた筈だが、右から左に抜けていたのだろう。

この「引力」と「斥力」という言葉から連想したのが人と人との距離感の重要性を連想した、久木住民協は人の繋がりをベースに活動を展開しているが、一方で人の繋がりを考える上で人と人との距離感も重要ではないかと脳裏をよぎった。

人と人はお互いに引き合うが、逆に反発する時もある、人によってその距離感も千差万別。要は相手を理解することと思ひ遣りが重要かと当たり前のことを考えた。

事務局長 石井 達郎